JOCV千葉OB会報

2020 年8月
No. 97
夏号

1. 新会長挨拶

ナマステ！　今年度になって三次恵美子前・会長より急遽、会長の任を引き継ぎました西村邦雄と申します。

JOCV 隊員としてネパールでの任期を終了したのが 1986 年 4 月なので帰国してから早や 34 年が経ちました。私にとってネパールは、初めて飛行機に乗って初めて行った外国であり、初めて覚えたネパール語が“ナマステ（こんにちは）”。このネパールでの 3 年間（1 年延長）の実体験は帰国後の私の人生の方向性に影響しました。今は海外でボランティア活動をする多くの NGO/NPO がありますが私が JOCV に参加した頃はかなり少なかったようでほとんど情報がありませんでした。

人生の一時期をビジネスではなくボランティアという形で海外に住み現地の人達のために自分が出来ることをすることは後々の人生の大きな糧になるものと思います。日本以外の国に住み現地語を話し友人を作って異文化に触れることは世界の中の日本の姿（歴史、経済、政治、文化など）を客観的に見て日本人として生まれた自分自身について考える大切な機会になることと思います。現在、新型コロナウイルス感染予防のために緊急帰国された隊員には是非、再派遣される日が来ることを願っています。そして、心ならずも再派遣が取り止めとなった隊員には短縮された派遣期間であっても海外での実経験を今後の人生に役立ててほしいと思います。

現 JICA 海外協力隊事業は政府開発援助(ODA, Official Development Assistance）の一部であり予算的には全予算から見たら僅少だと思いますが JOCV 経験者はこれまでに 4.5 万人を超えています。この人数は日本国内外で 1 つの社会貢献勢力になることができると推測します。このような JOCV 事業の進行中の 1992 年 6 月に『政府開発援助（ODA）大綱』が閣議決定され 2003 年には『新 ODA 大綱』に改定、2015 年には『開発協力大綱（Development Cooperation Charter)』と再改定されています。これらは日本政府が国税を使って援助政策を実施する際の基本的な理念と方針を定めた文書ですが、前者２『大綱』と後者『大綱』の大きな違いは“国益確保へ貢献”が表記され、“他国の軍隊が行う人道的活動に対する援助提供の可能性”を開いたことです。歴史的に見れば、1945 年 8 月の敗戦を経験した日本が 1952 年の“日本国との平和条約（Treaty of Peace with Japan)”によって GHQ 時代から国際的に独立した後に経済復興を遂げていく中で開発途上国への“経済協力”を実施してきました。日本は高度経済成長（GDP が世界２位なり現在は３位）を経て ODA 予算も増えましたが、その後の日本国内の経済的低迷もあり 1997 年をピークに ODA 予算が減少し現在はピーク時の 6 割程度になっています。21 世紀の日本では人口減少、少子高齢化、福島原発事故に伴うエネルギー課題、輸出力の低迷などが表面化したため、“ODA”と“日本の国益”の関係への認識変化があったのでしょう（私が JOCV 隊員時代に“ODA が日本の国益になる”といった内容を聞いた記憶がありません)。このように私達が生きている世界は急速に変化しており JOCV 事業も変化してきています。

私が JOCV 隊員を経験して痛感したことに“一期一会”と“健康”があります。普段は気づきにくいのですが、“ひょっとしたらこれが最初で最後かも知れないという出会い”があります。また、私達が“健康”的に生活することは基本中の基本です。JOCV の OB/OG の方々には協力隊情報の発信を是非、お願いします。また、今から JOCV 隊員として派遣される若者達には現地で出来ることを（決して無理をせず）精一杯やって、元気な顔をして帰国して下さい。ご健闘をお祈りいたします。

青年海外協力隊千葉ＯＢ会　　会長　西村 邦雄
（昭和 57 年度４次隊 ネパール 理数科教師）

【ゴルカ サクティセカンダリースクールにて開催した(1985.12)
“WORKSHOP SEMINAR ON SCIENCE & MATHEMATICS”】

目次

1. 新会長挨拶
2. 2019 年度活動報告
3. 新国際協力推進員挨拶
4. 現地活動レポート（一時帰国中隊員寄稿）

2018-4	岡嶋 直道	ルワンダ共和国	サッカー	御宿町
2018-3	渡辺 成美	インド	作業療法士	習志野市(職場) 新潟市(出身)
2018-3	山﨑 友豊	モンゴル	理学療法士	君津市
2018-4	中富 百合恵	ペルー	観光	山武市
2018-4	佐藤 瑠美	エクアドル	環境教育	習志野市
2018-3	熊井 果実	フィジー	栄養士	船橋市
2018-3	川名 真喜	ネパール	マーケティング	南房総市

5. 年会費納入のお願い
6. 編集後記　　☆お知らせ

2. 2019 年度活動報告

≪2019 年度　年間スケジュール≫

月	日	曜	内　　容	備　　考
【2019 年】				
4	10	水	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
4	13	土	平成 30 年度総会（浦安市国際センター）	出席者１６名
4	13	土	OBOG 懇親会（総会終了後）	
4	20	土	協力隊まつり（JICA 市ヶ谷）	
4	21	日	協力隊まつり（JICA 市ヶ谷）	
4	27	土	ＪＯＣＶナビ	平澤相談員
5	19	日	国際フェスタ CHIBA（神田外大）	
5	25	土	ＪＯＣＶナビ	平澤相談員
5	29	水	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
6	5	水	役員　引継ぎ会議	役員　８名出席
6	14	金	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
6	15	土	千葉県海外協力隊を育てる会 通常総会	出席：梶野
6	15	土	グローバルキッチン事前準備/　御宿　懇親会	御宿にて開催
6	16	日	グローバルキッチン　ホンジュラス食文化紹介	御宿にて開催
6	22	土	JOCA 令和元年度評議員会/第８回定時社員総会	出席：高石
6	22	土	ＪＯＣＶナビ	平澤相談員
7	8	月	2019-1 次隊　表敬訪問（千葉県庁）	
7	8	月	2019-1 次隊　壮行会（ホテルプラザ菜の花）	千葉県育てる会との共催
8	17	土	定例会（会報発送作業）	

8	23	金	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
8	24	土	ＪＯＣＶナビ	平澤相談員
8	31	土	グローバルキッチン事前準備/　御宿　懇親会	御宿にて開催
9	1	土	グローバルキッチン マレーシア食文化紹介	御宿にて開催
9	22	日	定例会（エッセイコンテスト 発送）	
9/24～10/12			JICA エッセイコンテスト在宅審査	
9	28	土	ＪＯＣＶナビ	
9	28	土	グローバルフェスタ 2019（お台場）	タコス屋台出店
9	29	日	グローバルフェスタ 2019（お台場）	タコス屋台出店
10	7	月	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
10	16	水	JICA エッセイコンテスト集合審査	審査員４名
10/17～10/23			世界一幸せな国 バヌアツ展（御宿）	バヌアツ ナバンガ・ビキニ二協会主催
10	19	土	エコメッセ （幕張国際センター）JICA 千葉デスクサポート	西村参加
10	20	日	エコメッセ （幕張国際センター）JICA 千葉デスクサポート	浜田、西村参加
10	26	土	ＪＯＣＶナビ	平澤相談員
11	14	木	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
11	23	土	JOCA 関東ブロック会議　１日目（駒ヶ根）	出席：西村、古関
11	24	日	JOCA 関東ブロック会議　２日目（駒ヶ根）	出席：西村、古関
11	26	火	2019-2 次隊　表敬訪問（千葉県庁）	
11	26	火	2019-2 次隊　壮行会（ホテルプラザ菜の花）	千葉県育てる会との共催
11	27	水	新規メーリングリストへの移行	
11	30	土	ＪＯＣＶナビ	平澤相談員
12	11	水	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
12	21	土	ＪＯＣＶナビ	平澤相談員
12	25	土	新ホームページ完成	
【2020 年】				
1	17	金	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
1	19	土	千葉県家族連絡会（千葉県商工会）	出席：平澤、西村、三次
1	25	土	ＪＯＣＶナビ	平澤相談員
1	29	水	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
2	15	土	帰国者研修　パネルディスカッション参加（市ヶ谷）	出席：三次
2	17	月	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村
3	2	月	日本も元気にする OB 会総会千葉開催 打ち合わせ	出席：三次
3	9	月	協力隊まつり実行委員会（JICA 市ヶ谷）打合せ	出席：西村

≪報告事項≫

１．新隊員等派遣壮行会・帰国隊員慰労会

新隊員等の派遣は 2019 年度より年３回となりました。これまでに引き続き、県庁表敬後に千葉県海外協力隊を育てる会との共催で壮行会を開催しています。2018 年度度より帰国隊員の県庁表も正式に始まりましたので、帰国隊員には慰労会として参加していただいています。県庁表敬は午前 11 時からの開始ですから、壮行会・慰労会は必然的に 12 時スタートの昼食時間となります。新隊員にとっては出発前の忙しい時期ですから所要時間は短めの約 1 時間ですが、新隊員等の自己紹介や決意表明があり、新隊員以外にも JICA 関係者や千

葉県育てる会の役員の参加があり、アルコールは入りませんが、和やかな雰囲気での会合となっています。尚、新隊員には千葉県育てる会から会の名前入りの 2 色ボールペンが贈られます。

2．JICA エッセイコンテスト 2019 について

本年度も中学生の部の一次審査を行いました。応募作品数は昨年度より少ない 1,388 作品の全国第 5 位でした。2013 年の 2,359 作品をピークに減少傾向が続いており、今後が心配です。その中から一次審査通過作品として 7 作品と補欠の 2 作品を選び、二次審査に上げました。最終的に受賞したのは、個人賞が国内機関長賞 1、佳作 6 のほか、学校への特別学校賞 2 校、学校賞 5 校と言う結果でした。外務大臣賞や文部科学大臣賞などの優秀賞を受賞できなかったのは残念ですが、8 名の在宅審査員と 3 名の集合審査員にご協力いただき、無事に一次審査を終了することができました。

3．イベントについて

本年度も昨年度とほぼ同じイベントに参加しました。4 月は「協力隊まつり」、5 月は「国際フェスタ CHIBA」、9 月は「グローバルフェスタ」、の計 3 件でした。

特にグローバルフェスタは日本最大級のイベントで、会場はお台場、主催はグロフェス実行委員会ですが、共催には外務省や JICA が名を連ね、内閣府、総務省、文科省などが後援しています。当会でも屋台を出店し、メキシコ料理のタコスとチアシードドリンクを提供しました。毎回、グローバルフェスタの収益は寄付としていますが、今回は、55,340 円を千葉県の復興支援として南房総市へ寄付しました。今回は募金箱も設置しましたが、募金をしてくれる方も多くいらして、胸が熱くなりました。

4．グローバルキッチンについて

2014 年より開始しているこの活動はすっかり定着して、本年度は 2 回開催しました。6 月はホンジュラス料理、9 月はマレーシア料理を体験しました。（3 月にタイ料理についても計画していたのですが、コロナ感染拡大防止の観点より延期としました。）　毎回、地域のみなさんの他、OBOG や国際交流に興味のある方々が 20 名～30 名程度参加し、一緒に料理を作り一緒に食べる楽しいひと時です。隊員の活動紹介とその国の出身の方からの文化紹介なども行っており、その国や協力隊の活動についてじっくりと知る機会となっています。体験型の国際交流イベントとしてぜひ継続していきたいと思っています。

2019 年は朝日新聞（6 月 13 日朝刊（千葉版））に掲載いただきました。

5．ＪＯＣＶナビ

毎月第 4 土曜日 14：00 から 16：00 まで浦安市国際センターにて実施していますが、協力隊まつりや国際フェスタ CHIBA などのイベント会場でも実施しており、本年度は昨年度の 52 名より少ない 34 名の相談者になりましたが、確認できたものだけでも 3 名が最終的に合格しました。尚、一次合格者の中で希望する方には二次選考の模擬面接を行いました。相談員は平澤昭男 OB（S43-2、フィリピン）にライフワークとしてお願いしています。駒ケ根訓練所長や JICA 在外事務所長を歴任された平澤相談員は協力隊事業の裏表を熟知されていますので、相談者にとっては力強いアドバイザーになっています。これからも千葉県出身の新隊員が続々生まれてくることを願っています。ただ、最近は東京や神奈川県からの相談者もいて、口コミで広がっているようです。

6．定例会

原則的に奇数月に開催を予定していましたが、現役世代で仕事が忙しい役員に集まっていただくのは大変ですので、本年度も何かの作業等のある時に定例会と称して集まっていただきました。前年同様、時間と経費をかけて集まって会合を開くよりＳＮＳにより意思の疎通や合意ができていることが大きな要因です。

ただし、2019 年度は大幅な役員変更があり、特に 8 年間も会長を務められた浜田前会長よりの引継ぎもあったため、役員そろっての引継ぎ会議を実施しました。

今後とも、奇数月の定例会は一応予定はしていますが、顔を合わせて協議する議題等がなければこれまで通りＳＮＳによる協議決定を行っていきたいと考えています。

7．派遣中隊員への支援

これまで千葉県海外協力隊を育てる会とのコラボで派遣中隊員への支援を行ってきましたが、今年度は 1 件支援機材の搬送サポートを行いました。タンザニア派遣中の大宮光里隊員（2019-1、美容師）から千葉県海外協力隊を育てる会に実習教材としてのウイッグ（10 体）を送ってほしいとの依頼があり、EMS での送付に関して現地事務所との調整を行いました。ウイッグは本年 3 月初旬に無事に現地に到着、卒業を控えていた学生さん達の指導に活用されました。

8．その他

新型コロナウイルスの影響で、JOCV ナビやグローバルキッチン、県庁への表敬訪問、協力隊まつりなど、2 月下旬から予定されていた行事の中止/延期が相次ぎました。2020 年 5 月には「日本も元気にする青年海外協力隊 OBOG 会」の総会を千葉県南部で開催する計画があり、千葉 OB 会も共催として地域で活躍する OBOG の活動紹介など、地元コーディネートをする予定で、1 月より準備を進めていましたが、結局、現地開催は取りやめとなり、オンライン開催となりました。

2020 年度もコロナ対策と並行しての活動が求められると考えられ、新たな活動の形を考える必要があります。

3. 新国際協力推進員挨拶

2020 年 6 月より JICA 千葉デスクを引き継ぎました、木村明日美と申します。私は 2017 年度 2 次隊としてキルギスで青少年活動を行い、昨年 10 月に帰国しました。生まれも育ちも千葉県流山市（チーバくんの鼻の穴付近）で、小学生の時に学校で開催された、途上国のゴミ山で暮らす子供たちの写真を撮っているカメラマンの講演会に参加してから「将来は国際協力に携わりたい」と思うようになりました。その後は法学部→自動車整備士→JICA 海外協力隊で青少年活動、という一見関連のない経歴ですが、進路選択のすべての場面で「国際協力のために自分ができることはなにか？」を考え、自分で選択してきた結果の蛇行キャリアです（笑）。

協力隊では、中央アジアはキルギスの、琵琶湖の 9 倍の大きさと透明度世界 2 位（真相不明）を誇るイシククルという湖の東岸付近（首都からバスで 6 時間半）にあるアクスー村の子供教育センターで小中高校生を対象に手工芸やリサイクル工作を教える活動に携わりました。最初の 1 年間はカウンターパートがおらず試行錯誤でしたが、2 年目に育休から復職した先生がカウンターパートになってからは、本当に楽しく充実した日々でした。何度も彼女の家に泊まりに行き、家族の一員となり、今でも連絡を取り合う大好きな「キルギスの姉」です。

キルギス人の口癖に「クダイ ブユルサ」という言葉があります。「神があてがったなら」という意味で、約束をするときなどによく言います。その言葉を言われると約束をはぐらかされているように感じて嫌だったのですが、カウンターパートと関係を深めるごとに「彼女と出会うために、神が私にキルギスという任国と苦悩の 1 年間をあてがったのだ」と思うようになりました。

コロナウイルスで混乱の中 JICA 千葉デスクに就任し、3 年ぶりの日本社会復帰と新しい仕事、そしてイレギュラーな業務とてんやわんやですが、「神がこのタイミングで JICA 千葉デスクの仕事をあてがってくれたのだ」と感じてやる気に満ちています。私を国際協力に導いてくれた小学校での経験のようなものを今の子供たちにも与えられるよう、開発教育や多文化共生に力を入れていきます。クダイ ブユルサ。

JICA 千葉デスク
木村 明日美
（2017 年度 2 次隊、キルギス）

4. 現地活動レポート（一時帰国中隊員寄稿）

2018-4　岡嶋 直道　ルワンダ共和国　サッカー　御宿町

私の派遣国は、東アフリカにある内陸国のルワンダ共和国です。多くの人には 1994 年にジェノサイド（ルワンダの虐殺）が起きた国として認識されているのではないでしょうか。現在はジェノサイドから 26 年が経ち、カガメ大統領のリーダーシップにより「アフリカの奇跡」と呼ばれるほどまで、政治・治安が安定し、経済が急速に成長しました。

私は 2019 年４月より首都キガリにある、NGO 団体「ルワンダ・サッカー選手 OB 組合」が運営する「Dream Team Football Academy」に配属されました。本チームには現在４歳から２０歳までの約 85 名（男性 80 名、女性５名）が所属しており、選手への指導と指導者の養成を活動の柱としていました。活動中に彼らに常に伝えていたことは、サッカーの技術・戦術的なことは１割くらいで、残りの９割は時間の使い方や何を目的に運営していくのかというところでした。練習に来ない選手が多数いて練習にならない、コーチが遅れて練習会場に着くなど、日本での当たり前とはほど遠い状況を楽しみながら、呆れながら、文句を言いながら、常に彼らに向き合い続けました。私が来たことにより、多少はそういった部分にテコ入れができたのではないかと思います。

【指導風景】

大きな活動の１つとして、2019 年 11 月 21 日から 12 月２日までの全 12 日間、選手１名・コーチ１名を訪日させる研修プログラムを実施しました。このプログラムは、配属先の選手とコーチが私の母校である千葉県の高校のサッカー部にサッカー留学生として参加し、サッカーを通じた異文化交流を体験することで、新たな知見と価値観を持つこと、そして特にコーチには育成レベルのリーダーとして活動してもらうための教育機会となることを目的として実施しました。結果、百聞は一見にしかずという言葉を体現したような素晴らしい経験をさせることができ、彼らを通じてチームへも非常に良い刺激を与えることができました。また内陸国に住む彼らは初めての海を私の地元である御宿町にて経験することができました。これらの経験がルワンダに還元されることが期待されます。

【日本へのサッカー研修プログラムでのトレーニング風景】

今回の新型コロナウイルス感染拡大による一時帰国により、この先再派遣できるのか不透明な状況ではありますが、約１年間で築いた任地の友人、同僚との関係性は切れるものではないと思っています。一個人として今後もルワンダと、そして世界との繋がりを持ち、自分を磨き、自分にできることをしていきたいと思います。

2018-3　渡辺 成美　インド　作業療法士　習志野市(職場)

私は 2018 年度３次隊として 2019 年１月からインドに派遣されました。インドと言えば、香辛料のきいたカレー、ガンジス川などを思い浮かべる方が多いでしょうか。インドでは、宗教が国民の生活に根付いており、ヒンドゥー教の寺院が多くあります。また、野菜やインド服を販売する市場はいつも賑わっており、活力溢れる街や人々がとても印象的でした。私が派遣されたコルカタという都市はそのようなインドらしさもありつつ、イギリス植民地時代の首都だったため、街中は欧風な建築物も見受けられる歴史を感じる街です。

私は作業療法士としてコルカタの国立医療機関で患者さんの治療や学生、教員の教育に携わっておりました。作業療法士は身体が麻痺した方や脳機能に障害を持った方々などが会社員として、主婦として、学生として、その方らしい日常生活を送れるようにリハビリテーションを提供する職種です。

派遣当初、活動先の器具や治療方法、衛生面などが日本とは大きく異なり、とても困惑しました。まずは現場を知るこ

とから始めようと考え、同僚の作業療法士、医療学生、看護師、医師や患者さんに話を聞きながら理解することに努めました。同僚や学生は英語が話せる方がほとんどでしたが、患者さんは現地語であるベンガル語を使うのでコミュニケーションを取ることにとても苦労しました。拙いベンガル語に英語を混ぜながら話し、ボディランゲージやイラストを使いながら治療や病態について説明を行っておりました。

私の協力隊生活の基盤を作り、楽しいものに変えてくれたものは「現地の方々の支え」です。現地の方々はとても人懐っこく、お世話好きでインドの文化や歴史、行事について教えてくれて、色んな場所に連れて行ってくれました。文化も言語も知らない外国人である私を受け入れてくれた現地の皆様にはとても感謝しております。

新型コロナウイルスにより世界は一変してしまいました。感染症蔓延に伴い、経済にも大きな打撃を受けました。約13億人の大国インドは貧富の差も大きく、経済の低迷は貧困層の生活に大きな打撃を与え、コントロールがかなり難しい状況が続いているようです。私は１年２ヶ月で予防的措置による帰国となりましたが、草の根活動を通した国際協力の重要性を感じることが出来ました。今後協力隊事業が再開出来る日が来ることを祈っております。

2018-3　山﨑 友豊　モンゴル　理学療法士　君津市

モンゴルは、2011 年に初めてモンゴル人理学療法士が大学を卒業し、首都を中心にリハビリテーション（以下、リハビリ）が始まりました。未だリハビリの歴史は浅いものの、現在、首都や地方都市では、リハビリを受ける事ができる病院が増えてきています。しかし、都市から遠い地域に住む方などは、今でも充分なリハビリを受ける事ができない現状があります。

『モンゴルでもより多くの方にリハビリを届けたい！』その想いから、遠方に住む方々の自宅を訪問し、リハビリを行いました。実際に様々な家庭を訪問してみると、リハビリをすれば症状がよくなる可能性があるのにも関わらず、自宅で寝たきりになっている人を診る機会がありました。私の２年間の活動終了後も、都市から離れた地域でもリハビリが継続して行われるように、遠方の診療所の看護師に対し、リハビリの技術伝達を行いました。

モンゴルのリハビリは、マッサージや電気治療などの物理療法が中心で、患者が受け身の状態が多い印象を受けました。患者がより良くなる為には、もっと患者が能動的に動く必要があります。正しいストレッチや歩行練習の方法を伝える事は大変でしたが、仲良くなった病院の同僚達に支えてもらいながら、地道に多くの方にリハビリを伝えていきました。今までリハビリを知らなかった患者が、再び歩けるようになった時や上がらなかった腕が上がった時など、患者の笑顔を見た時は、最高に嬉しかったことを覚えています。

【病院へ通う事が難しい患者に対し、町の看護師と一緒にリハビリを指導中】

モンゴル人はとにかく「肉」が大好き。特に牛肉と羊肉が大好物です。毎日の食事には必ず肉が入っています。肉が入っていない料理が出た時は、心なしか元気がありません。旅行に行く時も、日本人のおやつの様な感覚で肉を楽しそうに持ってきて、休憩の度にみんなで肉を食べます。風邪をひいた時も、「肉を食べれば治るから大丈夫」と肉を食べることを勧めてきます。そんなモンゴルでは、牛肉と羊肉がとても安いです。街の市場で牛肉を買うと、1kg あたり日本円で 500 円程度で買う事が出来ます。

モンゴルに赴任した当初は、モンゴルの牛肉の硬さに驚き、同僚のモンゴル人に「柔らかい牛肉はないか」と聞いたら、「モンゴルの肉は全部柔らかい」と答えられ、２年間硬い肉を食べ

る事を覚悟しました。しかし、1年後には、自分の顎が強くなったのか、モンゴルの肉が全て柔らかく感じるようになっていました。日本に帰国してからは、モンゴルの脂身が少なく、少し硬い肉が恋しい時があります。

【病院の同僚との旅行中。休憩時間に牛肉を焼いているモンゴル人の同僚達。】

2018-4　中富 百合恵　ペルー　観光　山武市

新型コロナウイルスが猛威を振るい、全協力隊員が日本へ一時帰国を完了してから、約3ヶ月。あまりにも突然だった為、休暇で家を空けていた私は、ほとんどの荷物を任地イカに残したまま、小さなキャリーケース一つで日本へ帰国することになりました。私が観光隊員として赴任していたペルーでは、南米の中でもかなり早い段階で国境を閉ざし、コロナ対策を行っていたものの、これまでの感染者数は30万人を超え、世界で5番目に感染者が多い国となりました。

ペルーには海岸砂漠地帯、アンデス山岳地帯、アマゾン地帯があり、エリアによって全く文化が異なります。その為、海岸砂漠地帯ではセビーチェという魚介のマリネが美味しく、アンデス地帯ではアルパカの肉や食用モルモットを食べ、アンデス地帯ではピラニアをはじめとする魚やバナナが食べられるなど、食文化がとても豊かです。意外だったのは、南極から流れるフンボルト海流のおかげで、ウニが絶品だったこと！日本のウニより濃厚で美味しいと思ったほどです。

任地イカでは、地酒ピスコを用いた観光プロモーションを手がけていましたが、配属先は慢性的な人事不足や予算不足に悩まされていた為、赴任4ヶ月目以降は活動先を三箇所に増やし活動していました。内容は主に観光ブログの執筆、日系企業向けのオプショナルツアーの作成、一般社団法人とのコラボレーション企画の実施、イカ商工会議所と日本の一般社団法人との間で長期的な関係性を築く為のビジネスパートナーシップ締結、観光局に訪ねてくる観光客への対応などです。プロモーションを行う上で、任地イカに関する情報がオンライン上では非常に少ないという課題に直面したため、ウィキペディアの執筆を行ったところ、慢性的な予算不足だった配属先からはとても好評でした。時間にルーズな現地の人々に翻弄されながらも、同僚とは良い関係性が築けていた最中、帰国のため活動中断となりました。

帰国後は、語学のオンラインクラスを受けたり、国際協力についての講話を行ったり、同期の英語教育隊員と協力しながら、現地の小学生に無料の英語レッスンを行うなど、積極的に日本からできる活動を行っていく予定です。母国での便利な生活に感動しつつも、任地では1日雨が降っただけで職場の屋根が7カ所落ちたことや、シャワー中に5回感電しながらも生還し、お湯のタンクが壊れて3ヶ月バケツでお風呂を済ましたこと、人違いにも関わらず借金取り立ての催促電話と10ヶ月間ほぼ毎日戦い続けた日々が、どこか懐かしくもあります。どこまでも予想の斜め上を超えてやってくるハプニングに加え、笑いと刺激に溢れた日々を大切に思い返しながら、1日も早くまた元気に任地へ戻ることを願ってやみません。

【配属先の同僚達と】

【観光局のオフィスにて観光客への対応中】

【日本文化紹介イベントにて】

2018-4　佐藤 瑠美　エクアドル　環境教育　習志野市

ガラパゴス諸島で有名な赤道直下の国、エクアドル。その気温と同じくらい人々の心は暖かいですが、実は他の南米諸国に比べて少しシャイな国民性です。私の活動先は標高6000 メートル以上のチンボラソ山の麓にある小さな町の市役所。レンガ作りが盛んで“魔女の町”とも呼ばれており、闘牛と闘鶏が年中開催される小さいけれど自然豊かな活気のある町です。一方、気になるのが道にポイ捨てされたゴミの多さとそれに対する人々の無関心さです。そこで環境啓発活動として市役所職員・住民に対してコンポスト作成やゴミの分別指導を行ったり、毎週小学校や中学校に出向きアクティビティを活用したりと環境教育を行いました。また、地元のお祭りと協同してリサイクル運動をする傍ら、浴衣試着、凧揚げや箸掴み競争など日本文化紹介を行ったイベントは地元の新聞記事にもなり、より多くの人を活動に巻き込む契機にもなりました。システム面としては、市役所のゴミ収集の方法やルート・スケジュール、作業員の労働環境の改善に重点を置きました。一年という短い期間で本当に良い縁に恵まれて、様々な観点から活動に勤しむことが出来ました。残りの任期で環境教育の役割を担う生徒達の育成、ゴミの分別・排出方法の確立、野良犬・猫の救済プロジェクトなど多岐にわたる環境教育を行う予定でしたが、コロナ禍で阻まれてしまったのが残念で仕方ありません。

今、エクアドルで一番恋しいものは現地の家族と音楽です。ラテン音楽には昔からの伝統的なものから、サルサ、バチャータ、レゲトンなど幅広い種類があり、本当に老若男女誰でもどこでも踊りだすのです。結婚式や誕生日会はもちろん、家でも道でも。特に週末はスピーカーを車に載せて丘の展望台に行きビールを片手に踊るのが若者の日課です。彼らにとって音楽は単なる娯楽に留まらず、踊ることでストレスや悩みを発散したり、自分を表現したり、愛情や友情を強めるコミュニケーション手段でもあるのだと感じます。もしリサイクルについての歌と踊りを作り、それが売れたら、誰もポイ捨てなんかしないのではとよく考えたものです。そんなエクアドルでは、誰でも参加できるパレードがたびたび行われて道路が封鎖されることも珍しくありません。私も家族や友人と何度か参加しました。毎回違うテーマや音楽を自分たちで決めて公道で踊るという初めての経験はとても楽しいものでした。

現在コロナに加えて、移民問題や先住民との諍いなど様々な難しい問題がありますが、一刻も早くエクアドルに家族や友人と音楽を楽しみ合えるいつもの生活が戻って欲しいと心から願っています。

【環境教育の一環で小学生と作ったショートビデオ】

【毎月行われる地元のお祭りをラジオ取材してもらった時】

2018-3　熊井 果実　フィジー　栄養士　船橋市

地域保健センターで、栄養士として、地域住民に対して生活習慣改善などヘルスプロモーション活動を行っています。配属先は首都から約 20km の距離にある町の中心にある公立保健センターです。NP（Nurse Practitioner）や看護師、Dental Therapist など多職種からなる学校保健チームに所属し、管轄地域の Primary school（小学校）を巡回訪問しています。スクリーニングの実施、要観察ケースの事後フォロー、ポピュレーションアプローチとして健康教育を行っています。また、地区担当看護師と情報共有し、地区保健活動を行っています。

【Pinktober（乳がん撲滅キャンペーン）2019.10 Village（村）の教会でイベントを行いました。検診受診や自己触診の勧めなど PR】

お気に入りの現地グルメを紹介します。

「Steamed fish with Miti」　蒸し魚のフレッシュココナッツミルクソースがけ

ココナッツの木が生い茂るフィジー。ココナッツの実を削り、水を加えて絞るとココナッツミルクができます。新鮮なココナッツミルクの美味しさを知ってしまったその日から、ココナッツミルクの虜です。ココナッツスクレイパー（削り器）を購入し、自宅でもせっせと削っています。もう缶詰には戻れません。Miti（ミチ）は、ココナッツミルクに塩を加えて味をととのえます。刻んだ生の玉ねぎや、柑橘果汁が加えられることもあります。蒸した魚または揚げた魚にたっぷりの Miti をかけ、好みで唐辛子を添えます。茹でた緑色の葉物野菜と主食のいも類とともに食べます。Cassava（キャッサバ）、Daro（タロイモ）などが定番です。フィジーの伝統的な料理は素材の味をいかしたシンプルな調理法です。ココナッツミルクの煮込み料理も一般的で、コクのある豊かな味わいです。

【蒸し魚のフレッシュココナッツミルクソースがけ】

フィジアンの人柄に惹かれます。

彼らは家族や友人を大切にします。愛情深く、心が豊かです。

素直で正直です。疲れを感じたら、休憩します。お腹がすいたら、食べます。

彼らのペースに時間がついてきます。

彼らの穏やかさ、温かさは、生まれ育った環境なのか、気質なのか。

日本では、時間や何かしらに気忙しく追われているように思います。

彼らから、今この瞬間を大切にする生き方を学びました。

【母が訪問した際、ホームステイマザーと日本文化交流】

2018-3　川名 真喜　ネパール　マーケティング　南房総市

〈暮らしに「ビスターライ」を〉

題名にある「ビスターライ」とは日本語に訳すと「ゆっくり」とか「のんびり」とかという意味。私はこの言葉が大好きだ。

2019年1月よりネパールの首都カトマンズから西に250キロ程の所に位置するワリンというところで、マーケティングという職種で活動している。

約束していた会議に遅れそうだったので、配属先で毎日出してくれるお茶の誘いを断ろうとした時「ここはネパール。時間通りに始まらないからゆっくりしていきな～」って時のビスターライ。バスが中々来なくて焦っていた時「そのうちくるから、のんびり待っときな～」って時のビスターライ。ネパール人がよく使う「ビスターライ」は私に気づきを与えてくれた。

【現地のお母さん達に編み物を教わりながらいろんなお話をしました。最高に「ビスターライ」な時間でした。】

東京で会社員をしていた頃は、毎朝8時15分までには電車に乗らなくちゃ、10時ミーティング、13時〇〇さんとランチ、19時からは恵比寿で合コンだから18時までに資料を仕上げて、18時半には会社をでなくちゃ、等といつも時間を気にしていた。そんな日々を送る事が人生の充実だと思っていたし、忙しなくしている自分が好きだった。

ネパールで出会った「ビスターライ」はそんな自分に、時間を気にして生活をする事＝大切にしたいルーティーンや自分時間を削っているという事を気づかせてくれた。

先ほど、「ネパールだから時間通りに始まらない」と書いたが、ネパール人は決して時間にルーズなのではないと私は思っている（諸説ありますが）。彼らは彼らのルーティーンや自分時間をとても大事にしているのだ。朝一番のお祈り、掃除と洗濯、朝ごはんの準備。これらを全部終えるのが9時。予定が8時に入ったとしても、早く起きる事はないし、洗濯は夜に等とはしない。そんなだから、予定にはどうしたって遅れてしまう。遅れてくるとバツが悪そうな顔をしながら、会場へ入ってくる。日本人の私からすると、悪いって思っているのになぜ？と思うし、柔軟性に欠けるとも感じる。でも、それでいいのだ。自分の時間は、自分が思うように使えば。こう書くと、ネパール人が利己的であるかのように思われるかもしれないが、そんな事は全くない。本当に優しい。その愛はどこからくるの？と思うくらい愛に溢れている。

ゆっくり、のんびりな彼らだから、イベントをするとなっても”あらかじめ準備する”という事は苦手。私がイベントの準備をしていると、「1ヶ月も前から準備するの？」と笑われた。でも笑いながらも「マキは日本人だもんね！」と言いながら手伝ってくれた。交わる事はできないかもしれないけれど、寄り添ってくれる優しさがネパール人にはあると思う。

新型コロナウイルスの拡大の影響を受け、2020年3月末から一時帰国している。日本で生活しているとつい忘れがちになってしまう「ビスターライ」な気持ち。これからも大切に持ち続けていきたい（決して遅刻常習犯になるわけではないです！）。

【現地の小学生を集めて、環境×スポーツ×マーケティングのイベントを行った際の一枚です。協力者のおかげで「ビスターライ」なネパールでも、無事にイベントを行うことができました。】

5. 年会費納入のお願い

年会費は１口「1,000 円」です。

当会運営の生命線は「年会費」ですので、引き続きご協力いただくようお願いします。２口以上のご支援も大歓迎です。

尚、振込にあたっては「派遣国」と「隊次」を必ずご記入ください。

☆振込口座は以下の ２ 行のどちらかにお願いします。

銀行名	：ゆうちょ銀行（当座預金）	銀行名	：三菱 UFJ 銀行 船橋駅前店
店番	：029（ゆうちょ以外からの振込用）	記号/口座番号	：（普）4769024
記号/口座番号	：00290-1-96562	名義人	：青年海外協力隊千葉 OB 会
名義人	：青年海外協力隊千葉 OB 会		

6. 編集後記

派遣から１年程という正に活動半ばのタイミングで退避することになってしまった隊員の方々の寄稿を読むと、もし自分が同じことになっていたらどのように感じるだろう、と考えてしまいます。新型コロナウイルスの影響の受け方は、国によっても人によっても変わりますが、「自分から動いてみよう」という意識の土壌を持っている OB を含む隊員は、逞しく柔軟に今の状況を受け入れているのではないかと思います。私自身は、2020 年をオンラインによる様々な取り組みの知見が得られる良い機会、だと感じています。

難しいとは思いますが、少しでも早く新型コロナウイルスの感染が終息することを With コロナの模索をしながら願います。

(平成 27-3　ウズベキスタン共和国　PC インストラクター　高石　千絵)

～お知らせ～

ホームページのご紹介

利用しているサービス停止のタイミングが重なったこともあり、2019 年度で OB 会のホームページ、代表メールアドレス、メーリングリストを刷新しました。

新ホームページは畠山伸昭さん（2016-3/ボリビア/コンピュータ技術）にボランティアで作成いただきました。更新は広報担当で分担して実施していきます。ホームページの枠自体はしっかり作成いただいたものの、まだまだコンテンツが少ないので、掲載する内容など募集中です。例えば、派遣中隊員のブログや地域での国際交流活動など、なにかネタがあればご連絡ください。

URL は下記ですが、「青年海外協力隊千葉 OB 会」で検索していただくことでもアクセスできますので、是非ともご覧ください。

青年海外協力隊　千葉 OB 会　ホームページ：　https://jocvchiba.org/

メーリングリスト／Facebook グループのご案内

上記ホームページにて、当会のメーリングリストと Facebook グループへの参加をご案内しております。是非ご参加ください。

連絡先　お問い合わせや会報への寄稿は　info001@jocvchiba.org　までお願いします。